

明るい声と笑顔！ 寄せ植え教室



背の高いコニファーの置き方で、雰囲気が変わるので、何回か試して自分の思い通りに…



10月30日(金)屋外で寄せ植え教室を実施した。コロナ禍で引きこもりがちの中、マスクを着用し、お互い気を付けながら楽しい講座となった。講師の山中厚子先生から参考作品をもとに、手順、気を付ける点、などを聞き、早速思い思いの寄せ植えをスタートした。鉢の真中にコニ



鉢底石と培養土を入れ、ポットのまま花を置いてみる



春が来るのが楽しみ マスクを一時外し、寄せ植えを負かす笑顔がこぼれた



クリスマスやお正月のアレンジも教わった



花選びや配置に個性が出る

今も、春も楽しみ

- 1面 春に咲く寄せ植え教室
- 2面 宮沢賢治の文学世界VI 研修旅行・真摯様トレーニング
- 3面 2020年度VI歴史探訪②・2021年度VI大地編②
- 4面 おらが町内会パート2 殿町・長岡

NPO法人
伊達西地区

自治協だより

第29号

発行・編集
NPO法人
伊達西地区自治協議会
発行責任者
理事長 小野孝雄

編集後記

コロナ感染の第三波到来、伊達市での初感染者確認という中で、活動自粛の影響は認知症の進行を早めているという。交流館事業はやつとバス研修が可能になり、後は会食ができるようになればと切に願っている。
(菊田)

シリーズ おらが町内会パート2 〈殿町〉

◆殿町いも煮会を毎年開催
しています！

恒例の「殿町いも煮会」を毎年伊達中央交流館ホールで開催し、併せて殿町自主防災会の非常時における炊き出し訓練として給食・給水班が中心になり大鍋でいも煮を調理しています。(本年度はコロナ禍対応のため中止。)

いも煮会には、子供連を含め70名程の参加者が美味しい「いも煮」を食べながらゲームやカラオケ、おもちゃ作りを楽しみ大いに親睦を深めております。



殿町長寿会の解散に伴い、長寿会が実施していた八雲神社清掃奉仕活動を令和元年度より殿町町内会が引き継ぐことになりました。神社は『伊達市の昔話「長岡の天王おけ」』にも出てくる著名な神社で、無病息災の神様と崇められています。

奉仕活動の内容は朝八時に神社に集合し、1時間程度の掃除と草むしりを行っています。参加者は年齢に関係なく、老若男女オーケーです。

殿町のスローガンは「ここは、環境にやさしい町内会です。」神社清掃奉仕活動を通して、町内美化とコミュニケーション形成を図っております。

(殿町町内会長 渡邊 新一)

◆八雲神社清掃奉仕活動を実施しています！

シリーズ おらが町内会パート2 〈長岡〉

◆排水設備設置 荒町地区

志和田川(田町水門)と鍛冶屋川(長岡の水門)にはさまれている長岡町内会荒町地区は、毎年雨の時期になると水害の心配がありました。

平成28年8月の集中豪雨での浸水被害、昨年の19号の台風では地区内約50軒が床上、床下の浸水被害に遭いました。(写真①)

排水施設の設置交渉により、伊達市では昭和30年より、阿武隈川堤防上部を越え河川敷に排水する、内水排除施設設置工事が実施され、令和2年完成した。

これで今年から安心であると期待している。

【概要】

- ・排水ポンプ2台
 - 吐出し量 6t/分
 - ・ポンプピット2組
 - ポンプ付き受水槽
 - ・圧送管φ250mm 2本
 - 道路部 約63m
 - 堤防部 約28m
- ※ピット内に水が溜まれば自動的にポンプで阿武隈川へ排水する。
- ・排水溝と堤防護岸工事(写真②)



- ・令和2年に荒町町内道路にコンクリートピット内にポンプ2台を設置。250mmのパイプ2本で排水する。(写真③)
 - ・電源が水没しないように高く設置してある(写真④)
 - ・水位センサーの調整検査(写真⑤)
- (長岡町内会長 吉田 篤)



安斎講師のお話 精巧な模型や当時の懐かしい映像とともに



当時、実際に使用されていた貴重な資料が多数



→菊田講師の講話

10月14日(水)らぶDate VI 歴史講座「昔なつかしい路面電車」が開催された。初めに菊田正男講師から、当時の交通について解説があり、安斎講師にバトンタッチ。安斎武さんは、「路面電車の会」「路面電車を懐かしむ会」の代表を務める、大の路面電車のファンである。少年時代から汽車や電車を身近に見てきており、活動が続けておられる。

蒸気機関車の時代、煙が嫌われたり、火災があったりし、のちに路面電車に変わること、本社が伊達町にあったころの車庫の様子や、湯野方面、保原掛田梁川方面の路線が集まる駅として長岡分岐点(駅)が賑わっていたこと等、資料をもとに、当時の運転手や車掌の方のエピソードを交えて説明頂いた。会場の皆さんは路面電車が廃線になってもう50年が経つことや、模型電車等説明を聞きながら、満員電車や「続行あり」の当時の盛況ぶりを懐かしむ声が上がっていた。

らぶDate VI 歴史探訪② 昔なつかしい路面電車の話



「熊阪台州とふるさと」の講話をする小野剛講師



↓八島講師の資料も参考に



充実した資料や図版を用いた小野剛講師のお話



10月21日(水)伊達盆地の丘陵地、高子地区の二十箇所を「高子二十境」として愛した熊阪三郎の二代目、台州について学んだ。八島俊雄講師から大地の観点から、高子を「高中の平」とし、大地が人を育んだとらえた。小野剛講師からは「熊阪台州とふるさと」と題して、講話をいただいた。

伊達が生んだ熊阪三郎の漢学者のことは聞いていたが、本当にわかりやすく話を伺うことができた。

講話「熊阪台州とふるさと」では、①「著作に読み解くふるさとの思い」②「人材育成」③「地域救済」の3部

らぶDate VI 大地編② 伊達盆地・高子の生んだ漢学者・熊阪台州の心と「高子二十境」



↑遅筆堂文庫内の井上ひさし展示室
学芸員の遠藤さんにお話を伺う
演劇の上演に適したつくりの劇場↓



10月6日(火)、「賢治のよき理解者 井上ひさしの遅筆堂文庫を訪ねる」と題し、山形県川西町と南陽市への研修旅行に出かけた。高野保夫講師による全7回シリーズ「宮沢賢治の文学世界 VI」の第5回目の講座として開催した。作家・井上ひさしの出身地である川西町の「川西町フレンドリープラザ」には、展示室も兼ねた「遅筆堂文庫」、町立図書館、劇場が併設され、作家の素晴らしい仕事ぶりが様々な形で残されている。井上ひさしが宮沢賢治を敬愛していたことがわかる数々のエピソードを聞き、宮沢作品が後世に与えた影響力の大きさを伺い知ることができた。



←井上ひさしのパネル



↑ドンガバチョもマスク姿



↑↓夕鶴の里にて



今年度初めてのバス研修で、感染症対策に気を使いながらの開催だったが、学びの多い充実した時間となった。



↓布海に到着 ↑ブナの原生林を味わう



色づき始めの薦紅葉



←ブナの原生林を歩く



↓百貫清水で一休み



10月10日(土)台風の影響で天候が心配されたが、幸いコースがそれて実施することができた。午前中は少し雨が降ったが、紅葉の始まった裏磐梯のトレッキングコースを楽しむことができた。バスやゴンドラは密を避けて乗車、マスクは時折折外し新鮮な空気を味わいながら歩行。

デコ平湿原へ向かう途中で、360度回転したブナの木があり、自然の造形の妙や力強さを見ることができた。百貫清水では黙々と湧き出る清水で、満足であった。

裏磐梯トレッキング : デコ平湿原・百貫清水・布海 :